



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 1 国際理解分野

本校には、オーストラリアと台湾に姉妹校があり、本年度も、姉妹校との交流を中心に、日本文化や名古屋の文化の紹介、オーストラリア・台湾の文化の理解を深める学習を行った。

##### (1) 異文化理解に関する学習

国際経済科の授業において、日本文化の理解、オーストラリア・台湾の文化・歴史等の学習を実施した。

##### (2) テレビ会議システムを活用した合同授業

本校に導入されているテレビ会議システムを活用して、姉妹校と相互に、自国の文化や自校の紹介を英語で行った後、質疑応答を行うという形式により合同授業を実施した。

5月12日、13日 チェリーブルック工科高等学校（オーストラリア）

11月5日、6日 高雄市立高雄高級商業職業学校（台湾）

##### (3) 外国の高校生との交流

11月5日（木）から7日（土）にかけて来日した高雄市立高雄高級商業職業学校の生徒20名と交流活動を行った。英語で互いの母国語を説明するアクティビティーや日常生活を英語で紹介するアクティビティー等を行った。また、茶道部のお点前を披露し、台湾の高校生に茶道を体験してもらうプログラムは台湾の生徒には好評であった。7日（土）には本校生徒が、台湾の生徒に名古屋観光案内を行い、交流を深めた。

##### (4) 英語によるプレゼンテーション大会への参加

###### ① World Youth Meeting 2015

8月7日・8日に日本福祉大学東海キャンパスで開催された表記大会に参加した。本校は、姉妹校である高雄市立高雄高級商業職業学校（台湾）との合同チームと、私立三信高級家事商業職業学校（台湾）との合同チームの2チーム出場した。

名古屋商業&三信商業チームは、「Bond goes beyond national borders」というタイトルでプレゼンを行い、東日本大震災や台湾で起こったクラスプレーの爆発事故を例に、国や言語、宗教が違って、支援を通して繋がることができるという“国境を越えた絆”について発表した。

名古屋商業&高雄商業チームは「The girl who across the ocean ~about foreign brides~」というタイトルで、“外国人の花嫁”に着目し、彼女たちを取り巻く差別や困難な暮らし、そしてそんな現状を打開するための政府の施策を伝えながら、国際結婚について考えを深め、私たちに出来ることは何なのかを考えよう、というプレゼンテーションを行った。

###### ② ASEP (Asian Student Exchange Program 2015 in Taiwan)

12月25日から30日にかけて台湾の高雄市で毎年開催される表記大会に本校国際経済科の生徒12名が参加した。本校のパートナー校は台湾の高雄市立中正高級工業職業学校と高雄市立楠梓高級中学の2校で、本校生徒は6名ずつに分かれての参加であった。生徒は6名ずつそれぞれの学校へ訪問し、交流活動を行うとともに、共同研究・発表の準備・リハーサルを行った。当日は「旅と学習」をテーマに両チームが発表し、共に

“PLATINUM AWARD”を受賞した。

#### (5) 台湾修学旅行

1月19日から22日にかけて、国際経済科2年生が台湾へ修学旅行に出かけた。台湾では、分散研修、姉妹校訪問等を通じて、異文化理解を深めた。

### 2. 環境・生物多様性分野

藤前干潟の“葦”という植物と自然環境との関係について学習を進め、「水資源・水環境の重要性」と「生態系の保護」が課題であると生徒が認識するようになった。藤前干潟の“葦”をビジネスに取り込み、エコロジーとビジネス活動と連動させるという、環境保全活動を産業として確立させるという研究を始めた。具体的には、刈り取られた“葦”を原料とした商品を開発し、販売するというビジネスモデルの研究を行った。津島毛織工業協同組合、尾張繊維技術センターの二つの地域の機関と株式会社トスコの指導・協力により、布地を製造することができた。また、この布地を加工した商品の製造は、社会福祉法人第一ワークスに依頼することで実現した。

生徒は“葦”を原料とした商品の開発を通して、ビジネスが環境保全、社会福祉への貢献、地域の活性化を図ることが可能になるのではないかとかんがえるようになった。

こうした研究を、「第10回愛知県高等学校生徒商業研究発表大会」と「第1回全国ユース環境活動発表大会」において発表した。また、「愛知県ユネスコスクール交流会」や「イオンecoフェスタ」、「藤前干潟ふれあい事業」において、展示コーナー・体験ブースを設け、これまでの取り組みを紹介した。

### 3. 地域への貢献活動

#### (1) 美濃和紙を原料とした紙布の商品開発

美濃和紙を原料とした紙布を利用した商品の開発を通して、地域に貢献する取り組みを行った。美濃和紙の工房より紙布の作成についての指導・助言を受け、紙布の染色には名古屋の伝統産業である有松絞りの会社の協力を得た。そして、本年度は牛皮と染色された紙布とを材料にした鞆の商品開発を行った。地元企業の協力により、試作品の製作までを行うことができた。

#### (2) 地域の菓子店と連携した商品開発

地域の和菓子店と連携して、新商品の開発を行い、「お菓子フェア2015（第7回 いちいお菓子フェア）」にて販売した。地域の名物になるよう生徒は工夫と改良を加え、フェアでは短時間で売り切れとなった。今後が、名物・定番商品となるよう、和菓子の開発をしたいと生徒の意欲は高まった。

#### (3) 地域イベントの企画・運営

愛知工業大学と地元の商店街と連携し、生徒が地域を活性化させるためのイベントを企画し、大学生、商店街の関係者と協力し、運営を行った。また、地域の活性化について研究し、発表を行った。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）